

かけはし



発行：峡南教育事務所地域教育支援スタッフ

所在地：南巨摩郡富士川町蹴沢771-2

TEL：0556-22-8154

FAX：0556-22-8144

HPでも御覧いただけます。URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>

人権講演会

8月17日(月)に、歌舞伎文化公園ふるさと会館において行われました、峡南地域人権講演会での講演要旨を紹介させていただきます。

「いじめって何ですか？」—いじめに対する大人の認識を考える—

NPO法人ジェントルハートプロジェクト 理事 小森美登里 氏



小森美登里氏

いじめにより自ら命を絶った子ども、交通事故等で命を落とした子どもの遺族に共通しているのは、我が子の死を無駄にしないことです。私も、娘がその身をもって教えてくれたことを、次の命を救うために活用したいと思います。加害者の子ども達にいじめをやめてもらうために、私達大人に何ができるのでしょうか。まず、いじめは虐待であって、人の心と体を傷つけ尊厳を失わせる人権侵害であることを、大人が理解しておかないといけません。いじめ問題は

今までずっと解決しないで来てしまいました。どこかで解決策を見出して子ども達の自殺にピリオドを打ちたいと思っています。では、なぜ今まで解決してこなかったのか問題点を3つ挙げたいと思います。

①心の問題をないがしろにしてきたこと。心の傷を過小評価することは非常に危険で間違っています。心に深い傷を負ってしまうと、正しく物事を考える力が奪われていき、その先に生きる気力までも奪われてしまうことがあります。心の傷、肉体の傷それぞれに考えるのではなく、肉体と心が二つそろって一つの命であります。②被害者責任論。被害者側に求めたり責めたりしたら、さらに心に傷を負い二度と相談しなくなります。「割り切った方が楽だよ→割り切れないから相談に来ている」、「そんなに気にするな→気になってしょうがなくて、辛くてやっと相談に来ている」。被害者責任論では決して解決はしません。加害者の心の問題であることを理解してください。大人の耳にいじめの事実が届く頃には、すでに心の傷がかなり深くなっています。被害者の訴えを受け入れることができない大人にも問題があるのです。③「やられたらやり返せ」と教えている親の多さです。そう教えられた子ども達はやり返すことに抵抗感をもちなくなってしまう。やり返すことによって、被害者だった子どもが加害者になっていくこともあります。私達は非暴力でなければなりません。とにかく、理由があれば人は人を傷つけてもいいのでしょうか。これら3つを改善するために、心や命のことをみんなで話し合う時間を持ったらどうでしょう。その際、教えるという視点ではなく、一緒に考えるという視点から、話し合う機会を作ってみてはどうでしょう。また、加害者の反省を促す際に、やっている行為を責めて、「何をやっているんだ」「自分がされたら嫌だろう」と言っても心には届きません。加害者にも何らかの背景があるはず。その子の背景に寄り添い、根気強い声かけが大事だと思っています。そして、傍観者も被害者だと私は思っています。被害者を守ったために、次のターゲットにされて学校に行けなくなったり、自殺に追い込まれてしまった子どもがいます。被害者を守ることは非常に難しいのです。守れなくても傍観者にできることを一緒に考えることが大切なのです。いじめを取り巻く被害者・加害者・傍観者の中に幸せな人は一人もいません。

小森さんの口調は終始穏やかでしたが、その言葉一つ一つに重みがありました。知識を伝える、方策を強要するというより、参加者に言葉を投げかけて心に届ける、心を動かすような講演でした。参加された方々は、それぞれの立場で、いじめ行為をなくすために子ども達に寄り添って心に届く指導をしていこうと、改めて決意をされたのではないのでしょうか。

かけはし140号の紙面

- p1 人権講演会
- p2 連載特集『峡南地域の食材』No.12 大野山保育園うどん作り体験
- p3 地域芸能継承の取組 山人会賞受賞
- p4 ことぶき勸学院祭、増穂商業創立60周年式典、わかば支援学校ふじかわ分校・身延山高校学園祭

☆☆連載特集 『映南地域の食材』 No. 12

南部町「生姜」と食改さん

【ジャムde生姜】

南部町の生姜作りは、さかのぼること江戸時代に始まり、地域の特産物として珍重されてきました。その生姜を使って何か作れないかということで、南部町商工会女性部（遠藤洋子部長以下会員29名）が、3年前にジャムとして商品化したのが「ジャムde生姜」です。当時部長だった眞保昭子さんは、川崎の生姜料理専門店のオーナーから指導を受けながら試行錯誤の上ようやく商品化しました。原料となる生姜は、万沢在住の遠藤信一郎さんが栽培している大生姜を使い、水分も多く香りも良い10月初旬に作業を行います。1瓶150グラム入りのジャムを6日間で1,000本作っています。この期間、会員さんが常時8名程度集まって、工程は全て手作りで行います。販売は11月3日から「道の駅とみざわ」と「ふるさと館」で開始されます。例年大好評で、1ヶ月程度で完売してしまうそうですので、お求めはお早めにとお思います。



皮をむいて綺麗に → 薄切りにしてミキサーに → ハチミツ・砂糖・ゆずを混ぜて → じっくり煮込む → ジャムde生姜の完成



【南部町の食改さん】

南部町の食改さんは、望月明美会長を含め現在113名で活動しています。「お互いに学び、交流し、食生活改善推進員の質の向上に努めよう」、「地域住民の健康づくりのために生活習慣、食生活習慣の知識を知り町民に伝達し広めていこう」この二つを活動目的に置いて活動しています。今

年度は、たけのこ祭りの際にPRをかねた販売や、乳・乳製品を使用した骨太クッキング、低栄養予防料理レシピなどを活用して地域への伝達講習を行っています。減塩への活動も積極的にいき、食改さんが各家庭をまわってみそ汁塩分測定家庭訪問を行う予定です。

【南部町福祉健康まつり】



10月8日に、南部町福祉健康まつりが行われ、食改さん達（47名）もご飯・キャベツの手ばかり体験、塩分濃度別味噌汁の飲み比べブースを出店しました。ご飯・キャベツの手ばかり体験は、「塩山式手ばかり」を参考に一人一人にあった食事量の適量を体験してもらっていました。この日用意した5升のじゃこ入りご飯が約1時間ほどで無くなってしまった程の盛況ぶりでした。また、同ブース内で異なる三種類の塩分濃度（0.6%、1.0%、1.4%）の味噌汁を飲み比べてもらい減塩の普及に努めていました。



うどん作り体験

大野山保育園

11月4日（水）大野山保育園（沢村和子園長）の園児たちが、今年で4回目となる、うどん作りに挑戦しました。このうどんの原料となる小麦は、6月4日（木）に園児の手で麦刈りしたものです。麦刈り・うどん作り共に地区の大野クラブの方々の協力を得て行っています。うどん作りにも4名の方が指導に来ていただきました。まずは、年中児・年長児が小麦粉をしっかりと捏ねて、次に年少児が強い腰をつけるために足踏みをして、最後の仕上げは年長児が行いました。作業開始から1時間30分程で、この日用意された小麦粉8キログラムをうどんに仕上げていきました。園長先生の方針で、麦刈りからうどん作りに全園児が関わられるようにしています。茹でたうどんを園児たちが試食しましたが、その笑顔に満ちた表情を見ていて、体験することの大切さや素晴らしさを改めて感じることができました。



地域芸能継承の取組

中学校の学園祭で地域の優れた伝統芸能を披露しました。



三珠中学校

「希珠太鼓」

三珠中学校では、毎年3年生が、「希珠祭」のオープニングで、「希珠太鼓」を演奏しています。曲は「山響」、指導を「三

珠歌舞伎太鼓の会」の村松基孝会長さんをお願いしています。今年の希珠祭においても、会場全体に力強い太鼓の音が鳴り響き、真剣な表情で太鼓を打つ中学生の姿が、会場の人々に大きな感動を与えました。初代市川團十郎発祥の地、三珠地区には「歌舞伎太鼓」があります。始まりは、昭和63年に結成された「三珠和太鼓同好会」（当時、依田一会長）ですが、その後、「三珠歌舞伎太鼓の会」（村松会長）として再編成されました。天野宣氏を招いての小中学生への技能指導や指導者の養成、地域の観光振興活性化に向けた様々な取組に力を注いできました。歌舞伎太鼓は、今も、ぼたん祭り、夏祭り、収穫祭、成人式など、重要なイベントで演奏されています。



南部中学校

「内船歌舞伎」

南部中学校1年生が、「輝城祭」にて内船歌舞伎を披露しました。演目は、鎌倉時代の「吉例曾我 対面の場」です。父親を殺

された兄弟が、そのかたきと対面するという場面で、かたき役とそれを討とうとする兄弟との掛け合いが見所でした。衣装を身に纏った役者たちの息の合った名演技や見得を切る姿に、会場いっぱい大きな拍手がわき起こりました。内船歌舞伎保存会（山本接三会長）は、伝統芸能の理解と担い手育成のために、南部中の生徒に指導を重ねています。内船歌舞伎は、江戸時代後期に、江戸の旅役者によって内船地区に伝えられ、その後、約250年に渡って引き継がれています。平成23年には、県無形民俗文化財に指定されています。12月の歌舞伎保存会定期公演においても、中学生がこの演目を披露する予定になっています。



鵜沢中学校

「鵜沢ばやし」

鵜沢中学校では、地域の伝統芸能である「鵜沢ばやし」の伝承に取り組み「鵜朋祭」にて毎年1年生が発表をしています。

当日も、笛・太鼓・しめ太鼓・鉦の音を絶妙に重ねながら軽快なおはやしを奏でていました。鵜沢ばやしとして伝えられているものは、鵜沢ながし・四丁目・雨だれ・はぎはらの4曲ですが、舞台演奏用に組曲としてアレンジしたものを演奏しています。鵜沢ばやしは、京都の祇園囃子と江戸のお囃子が富士川舟運によって伝わり、鵜沢ばやし保存会（青柳博文会長）により、現在まで引き継がれています。町の山車巡行祭りにて、曳行される4台の山車の上で演奏されており、起源は江戸時代（嘉永3年・1850年）といわれています。鵜沢ばやし・4台の山車ともに町の民俗文化財に指定されています。



早川中学校

「白鳳太鼓」

早川中学校では、毎年、南アルプス白鳳太鼓保存会の指導を受け、「白鳳祭」のオープニングセッションとして、「白鳳太鼓」を披露しています。

白鳳祭当日も、勇壮にして華麗な鼓曲を、体いっぱい演奏していました。白鳳太鼓保存会（望月一彦代表）は、「町の文化活動の向上」と「太鼓を通じて活力ある町づくり」を目指して、昭和56年に結成されました。長野県岡谷市「御諏訪太鼓保存会」の指導をいただきながら、約30年間に渡り、精力的な活動を続けてきています。これまで県内外のイベントや海外公演など、各地で数多くの演奏を重ねています。早川中生徒も、この地で育まれてきた白鳳太鼓を確実に引き継ぎ、11月のそば祭りにおいて、町内外から訪れた観衆の前で演奏しています。

山人会賞の栄誉 「三珠中学校 希珠太鼓」



10月9日（金）、県立図書館にて、山人会賞の表彰式が開催されました。三珠中学校の樋口勉校長が、学校を代表して式に出席し、山人会理事長より、表彰を受けられました。平成5年度より続く、地域の伝統芸能を守る取組が評価されたためです。その後、甲府駅北口山手渡櫓門前にて記念行事が行われ、中学3年生が、「希珠祭」で披露した鼓曲を、山人会関係者ほか多くの観衆の前で、力強く演奏しました。懸命に演奏する勇姿に、会場を訪れた多くの人たちから、賞賛の拍手がおくられていました。



ことぶき勸学院祭



上野貴美子さん

10月15日(木)、コラニー文化ホールにおいて第29回山梨ことぶき勸学院祭が開催されました。今年のテーマは「学び合い 集う楽しさ 勸学院」。これは、峡南教室1年生の上野貴美子さんの案が採用されたもので、開会行事において、阿部邦彦学院長から表彰を受けられました。続いて、山梨県内6教室1・2年生の発表が行われました。峡南2年教室は、「ちいちゃんのかげおくり」と題した朗読劇を発表しました。戦時中の話を2年生全員で熱く演技しました。会場全体が朗読劇に引き込まれるような素晴らしい発表でした。また、峡南1年教室は、「命くれない」「好きになった人」をリズム健康体操集団ダンスで発表しました。ダンスのリズムも息がぴったり合っていて練習の成果が十分に発揮された素晴らしいステージとなりました。勸学院祭の成果を通じてともに学ぶ方々の絆を深めるとともに、新たな目標に向けてのそれぞれの前向きな取組がまた始まることでしょう。



2年生発表



1年生発表

創立60周年式典・記念演奏会 県立増穂商業高校



10月17日(土)、増穂商業高校創立60周年式典・記念演奏会が行われました。増穂商業高校は昭和31年に増穂高校として全日制・定時制とも商業課程を設置し誕生しました。昭和38年に増穂商業高校に改称し、昭和61年に学科改編を行い現在の商業科・情報処理科の2学科設置となりました。現在は、県立唯一の商業高校として、地元富士川町をはじめ、地域との連携を重視しながら、県内商業教育の中心的役割を担っています。また、卒業生も今年の3月で12,597名となり、政財界をはじめ、教育・文化・スポーツなど、地元をはじめ全国各地で活躍しています。若林毅文校長は、式辞で「誠実さからは、知らないものを知ろうとする学習意欲が生まれます。誠実さからは、お互いの違いを越えて協力し合おうとする謙虚さと尊重の気持ちが生まれます。どんな時代であれ、真面目に・諦めず・最後まで・責任を持って、という本校の校訓『誠実』と、本校創立に御尽力された方々の情熱は変わることなくこれからも、否、予測不可能なこれからの時代を生き抜こうとした時、今まで以上に社会から求められていくものと確信します。」と述べられました。式典終了後には「アルパカ・ジャズオーケストラ」を招き記念演奏会が行われました。ジャズの力強さと若きミュージシャン達のパワーで会場を盛り上げていました。



卒業生も今年の3月で12,597名となり、政財界をはじめ、教育・文化・スポーツなど、地元をはじめ全国各地で活躍しています。若林毅文校長は、式辞で「誠実さからは、知らないものを知ろうとする学習意欲が生まれます。誠実さからは、お互いの違いを越えて協力し合おうとする謙虚さと尊重の気持ちが生まれます。どんな時代であれ、真面目に・諦めず・最後まで・責任を持って、という本校の校訓『誠実』と、本校創立に御尽力された方々の情熱は変わることなくこれからも、否、予測不可能なこれからの時代を生き抜こうとした時、今まで以上に社会から求められていくものと確信します。」と述べられました。式典終了後には「アルパカ・ジャズオーケストラ」を招き記念演奏会が行われました。ジャズの力強さと若きミュージシャン達のパワーで会場を盛り上げていました。

高校学園祭

わかば支援学校ふじかわ分校



わかば支援学校ふじかわ分校(中山真男校長)は、10月31日(土)に「第16回ふじかわ分校まつり」を開催しました。開祭式に続いて、学部発表が行われました。小学部は色鮮やかな衣装で「ふじかわ森のなかまたち〜ありとぎりぎりす〜」を、中学部は生徒達が脚本を考えた「光と闇の物語」の発表をそれぞれ行いました。また、今年度初の試みとして午後から「お祭りひろば」と「PTAバザー」が行われました。児童生徒が手作りした品々を、児童生徒自らが販売を行う「お祭りひろば」は大盛況でした。元気いっぱい活躍する児童生徒たち、児童生徒を取り巻く先生方や周囲の大人たちのやさしい心遣い、訪れる人々の心を温めてくれる分校まつりでした。

身延山高校



身延山高校(小林学校長)では、「輝き楽しむ青春の今」をテーマに10月31日(土)に「延山祭」を開催しました。生徒会本部・委員会・部活動それぞれが役割を分担して、発表部門・展示部門・模擬店などを運営していました。オープニングセレモニーは、生徒による開式法要でした。厳かで重厚なお経が会場に響いていました。「夢の実現」「感謝の心」などをテーマに熱く語った弁論大会、プロ手話シンガー水戸真奈美さんを招いての手話歌、雅楽部や軽音楽同好会による演奏、バザーや茶会の開催など、盛りだくさんの内容でした。その他各学年の発表や展示もありました。生徒会本部による「感動のフィナーレ」も素晴らしく最後まで熱気と感動に包まれた学園祭となりました。